第1回産業日本語研究会・シンポジウム

2010-02-25

高度言語情報融合フォーラム（ALAGIN）

言語処理学会

一般財団法人日本特許情報機構（Japio）

背景と目的

- 日本語による知識循環の活性化
  - 産業や科学技術での知的生産性の向上
  - 国際競争力の強化
- 日本語に関する知見の蓄積
  - 体系化の可能性

産業日本語

- 情報伝達力・発信力の強化
  - 知識の正確な伝達・共有・生産
  - コンピュータ処理が容易
- 産業や科学技術に用いられるべき日本語の新しい枠組

eサイエンス

データ、知識、人材、装置、ソフトウェアなど

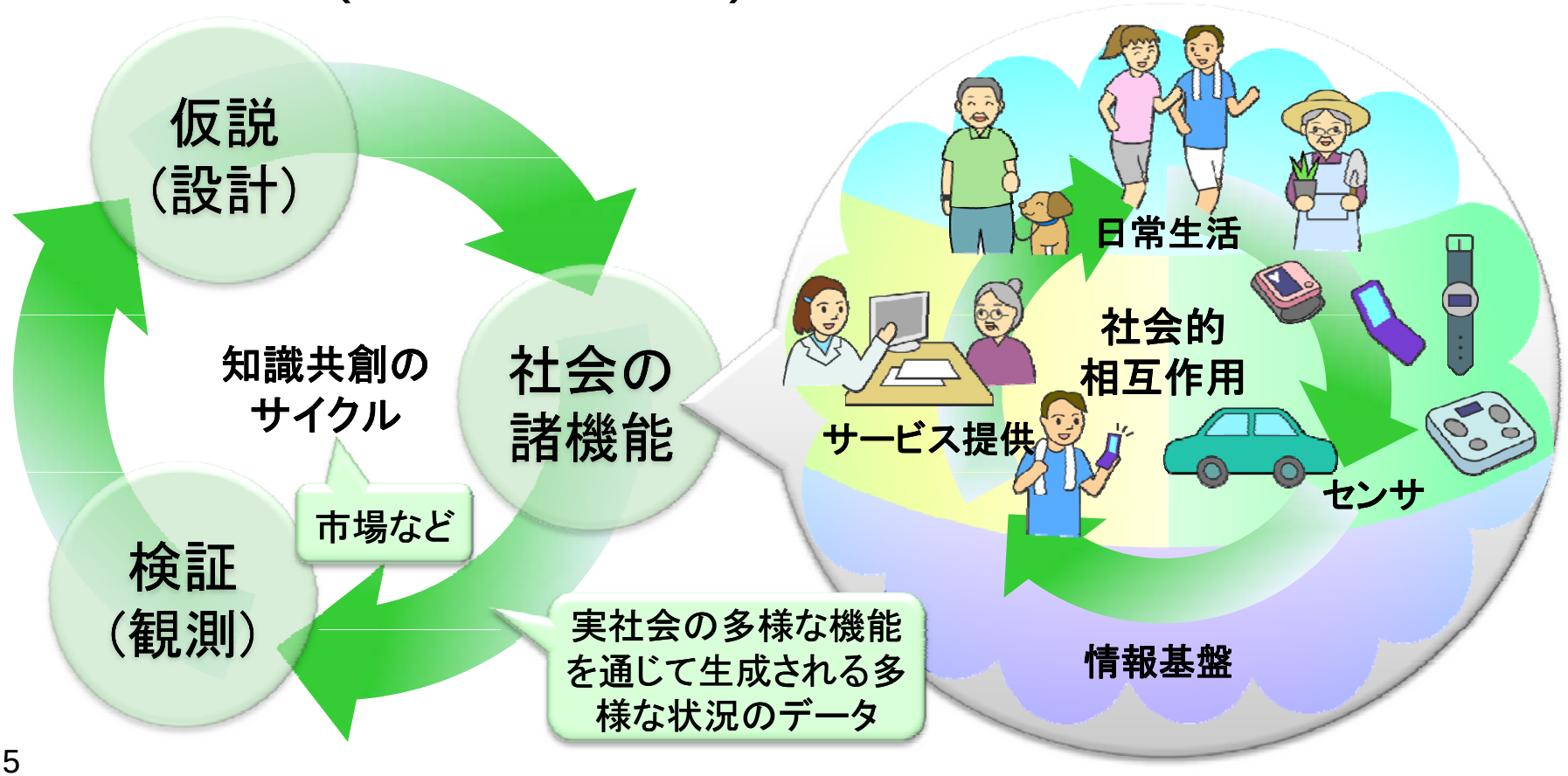
- 情報ネットワークを介した資源の共有に基づく協調による科学研究
  - 理論科学、実験科学、計算科学の統合
- 従来のeサイエンス
  - 天文学、原子物理学、分子生物学など
  - 実社会からの乖離

ソーシャルeサイエンス

生活、産業、行政、etc.

社会と科学の融合 ← ITで支援

- 社会が定常的に生成するデータを用いて社会の諸機能と融合した仮説検証を行ない、その成果を直接社会に還元
- 情報技術による研究資源の共有と協働・・・eサイエンス
- 社会の機能(広義のサービス)が主な研究対象



シンポジウムの概要

- 産業日本語への明確なニーズがあると考えられる分野での取り組み
  - 特許
  - 司法
  - 医療

予定

- 産業日本語シンポジウム
  - 研究・活動成果の発表・共有
  - 年に1回程度
- 産業日本語研究会
  - 各界の専門家の研究交流
  - 代表：井佐原 均　産業日本語研究会世話人会代表
  - H22年度から活動
- 産業日本語研究会Webサイト
  - シンポジウムの開催情報
  - 研究会の活動スケジュール
  - 情報交換、研究会成果の公表等